

令和4年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属池田小学校

1 附属池田小学校の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属池田小学校

(2) 所在地

大阪府池田市緑丘 1-5-1

(3) 学級数・収容定員

18学級(1学年3学級) 収容定員人(1学級35人)

(4) 幼児・児童・生徒数

602人

(5) 教職員数

校長(専任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 教諭 24人(うち, 臨時的雇用2人), 非常勤講師 3人
事務職員 3人, 臨時用務員(用務員1人), 調理員 1名, 臨時用務員(調理員4人)

2 附属池田小学校の特徴

本校では、平成13年6月8日の事件以後、二度とこのような事件が起こらないよう安全管理に万全を期するとともに、「命の大切さ」を感じとることができる教育内容の研究を推進し、個々の児童が安全な社会の担い手になる教育を進めている。そして、平成21年2月に教育課程特例校指定を受け、現在に至るまで全学年で安全科の授業を行っている。

また、平成22年3月に日本で初めてインターナショナルセーフスクールに認証され、安全教育の実践を深め、安全教育の発信を継続した。それらの実績が認められ、平成27年3月6日には、わが国独自の学校安全の考え方をもとに設立された、セーフティプロモーションスクールの認証を受けた。その後の継続的な活動が認められ、平成30年3月・令和3年3月に再び認証を受けた。

3 附属池田小学校の役割

1. 義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行う
2. 大阪教育大学との共同による学校教育と生涯教育の実践的研究
3. 大阪教育大学の学部生と大学院生の教育実習と実地研究指導
4. 公立学校との実践的研究交流など、地域社会との連携・協力
5. 学校が安全で安心できる場所とするための安全教育の実践と発信

4 附属池田小学校の学校教育目標

1. 自ら進んで学び、生活をきりひろく主体的な意欲と能力の育成
2. 好ましい人間関係を育てることによる集団的資質と社会性の育成
3. 自他の命を尊重し、社会の平和と発展を希求する心情の育成
4. 健康の増進と、明るくたくましい心身の育成
5. 安全な社会づくりに主体的に参画する人間の育成

5 附属池田小学校の学校教育計画

1. 言語能力の向上、表現力豊かな児童の育成を目指し、各教科、道徳、安全科等を通じて自ら進んで考える力、伝え合う力の定着を図る。
2. 自他の立場を考えて、共に協調して行動できる児童を育成する。
3. 生命を尊重する意識を高め、地域社会や世の中の平和と発展を望む心情を育成する。
4. 身の回りの安全に注意し、自らの心身を進んで鍛えようとする心情を育成する。
5. 安全科等の学習を通じて、人に守られるだけでなく、周囲に働きかけようとする意欲や態度の育成を図る。

6 附属池田小学校の令和3年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	自ら進んで学び、生活をきりひろく主体性と能力の育成。
学校教育計画	自他の良さを認め、表現力豊かな児童の育成を目指し、各教科、道徳、安全科等を通じて自ら進んで考える力、伝え合う力の定着を図る。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
「子供と作る学び」を研究主題に設定し、子供が自ら気づき、伸びようとする評価の在り方に焦点を当てた授業研究を行い、子供と紡ぎあげる授業づくりおよびその発信を行う。	① 校内授業研究会の質・量を確保し教員の授業力向上を図る。	各教員が年1回以上の校内授業公開および授業討議会を実施した。十分な時間の授業討議会を実施することで、教員間の授業づくりにおける目当てが共有でき、授業力を向上させることができた。	教員の働き方改革も必須であり、校内授業公開および授業討議会の効率的な開催方法を考えていく必要がある。	B	校内で、互いの授業について活発な意見交換できているのは評価できる。教員同士が切磋琢磨し、学校全体の教員の質を向上させてほしい。	A	教員一人一人の授業力の向上と働き方改革の両立に向けた組織の在り方を構築していく。
	② 外部に向けての研究発表会や研修会を実施し、授業力の評価を問う。	2月に3年ぶりに対面での教育研修会を実施した。約350名の参加があり、授業に対する活発な議論があり、多くの参会者の方から肯定的な評価を得ることができた。	3年ぶりの対面での教育研修会だったため、開催の準備等に時間を要した。効率的に研修会を運営できる組織作りが必要である。	A	多くの参会者と共に授業について真摯に取り組んでいる点が評価できる。今後も発信を続け、全国の多くの教員とつながってほしい。	A	研修会の運営方法を見直しながら、全国の教員と授業について学びあえる場の提供を続けていく。

学校教育目標	自他の命を尊重し、社会の平和と発展を希求する心情の育成。
学校教育計画	生命を尊重する意識を高め、地域社会や世の中の平和と発展を望む心情を育成する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
生命尊重や社会の平和と発展を希求する心情をはぐくむ教育実践を行う。	① 6月8日の「祈りと誓いの集い」に向けての取り組みを継続させる。	6月8日に祈りと誓いの集いや安全の授業に参加することで、改めて命の尊さを感じることができる取り組みを実施した。	事件を直接知らない教員、児童や保護者に対して、事件を風化させないように引き続き語り伝えていく必要がある。	A	事件を風化させることなく、命の大切さをしっかり考えることのできる取り組みを継続して行ってほしい。	A	事件について直接知らない教員がほとんどであるため、事件当時やその後の取組の資料を基に学習会等を行っていく。
	② 道徳や安全の授業を教員で交流し、授業力の向上を行う。	教員の異動に伴い、本校独自の安全科の授業についての理解が薄まらないよう、カリキュラムをもとに授業を行った。	新カリキュラムの内容を吟味し、実態の応じたカリキュラムへの改善を継続していく。	B	本校独自の安全科の授業の内容をより良いものにして、広く発信してほしい。	A	より多くの学校で安全科の授業が実施されるよう、発信を続けていく。

学校教育目標	好ましい人間関係を育てることによる集団的資質と社会性の育成。
学校教育計画	自他の立場を考えて、共に強調して行動できる児童を育成する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
児童相互の交流が生じる学校としての取り組みを実施する。	① 縦割りの活動(わくわく活動)を通じ、リーダーシップの育成を図る。	校内生活啓発ポスター作りや縦割り清掃等を通じて、6年生に最高学年としての自覚を持たせ、主体的に活動できるようにした。	今年度は啓発ポスター作りなど今までと異なる活動を行った。今回の活動内容についての検証を行っていく。	B	異学年のつながりを深め、下級生の模範となる姿を見ることができ活動が続けて行ってほしい。	B	学年の実態に応じた関わり方について引き続き検討を進める。
	② 文化発表会での発表を通じ学級や学年の仲間との協力の必要性を実感させる。	今年度も新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、劇や合奏を行った。これらの活動を通して、児童に仲間と協力することの良さを感じさせることができた。	多様な開催のノウハウを積み重ね、内容の充実や効率化を図っていく。	A	様々な対策をしながら、臨機応変に対応し児童が貴重な経験を得ることができるようになっている点が評価できる。	A	今までの慣例にとらわれず、児童がより良い経験ができるよう、実施方を柔軟に考えていく。

学校教育目標	安全な社会づくりに主体的に参画する人間の育成。
学校教育計画	安全科等の学習を通じて、人に守られるだけでなく、周囲に働きかけようとする意欲や態度の育成を図る。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
安全に対して関心を高め、将来にわたって安全な社会の形成にかかわる素養を身に着けさせる。	6年間の系統性のあるカリキュラムの実践。	新カリキュラムを計画的に実施し、授業実践を積み重ねることができた。	新カリキュラムの内容を吟味し、実態に応じたカリキュラムへの改善を継続していく。	B	引き続き、わが国をリードする安全教育の取り組みを進めてほしい。	A	引き続き研究会での安全科の授業公開やSPS取得のサポートを充実させていく。

学校教育目標	健康の増進と、明るくたくましい心身の育成。
学校教育計画	身の回りの安全に注意し、自らの心身を進んで鍛えようとする心情を育成する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
校内での安全な生活についての意識を高め、重大なけがを減少させる	① 安全科の授業等において具体的な場面をもとに児童に安全な生活の良さを実感させる。	知識としては理解しているが、休み時間等の過ごし方等で、知識が行動につながっていない児童がいる。知識を活用するための手立てを協議していく必要がある。	児童の学校での過ごし方の問題点を様々なツールを用いて素早く共有することで、学校全体で指導を継続していく。	B	様々な場において、児童たちが安全に学校生活を送ることができるよう、指導を続けていってほしい。	B	教職員で意識の共有を行い、随時指導していく。
	② 毎月、安全点検を実施し、危険個所の把握に努め、危険個所の早期改善に努める。	教員全員が、毎月担当場所を点検することで、危険個所を早急に見つけ対処できた。	施設自体の老朽化が進んできており、引き続き安全点検が必要である。また、改修についても計画的に進めていく必要がある。	A	定期的に施設の点検・改修が行われていることが感じられる。	A	来年度も、今年度と同様に活動を行っていく。

